

わくわくひろば 9月

夏休みの開館日は、8月3日に39人、17日に33人が
本を借りに来てくれました。
暑い中、送り迎えをしてくださったお家の方も
ご協力ありがとうございました。

夏休みには、本をたくさん読めたでしょうか。二学期も、みなさんが本を借りに来てくれるのを待っています。夏休みに借りていた本を全て返した人から、貸出を始めています。休みの間借りていた本は、**9月3日（金）**までに返してください。

しょうがくせい しんぶん よ
小学生新聞も読んでみよう！

まいにちしょうがくせいしんぶん 毎日小学生新聞

楽しく、深く、わかりやすく――。
10年、15年先まで見据えながら、小学生のみなさんの「学び」と「育ち」をお手伝いしたいという願いを込めて、発行されています。全ての漢字にふりがながついているので、1年生から読めます。「毎日読むから毎日伸びる」新聞です。



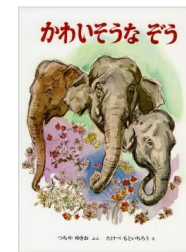
しゅうかん 週刊こぴっと

やまなしにちしんぶん まいしゅうもくようび だ しんぶん
山梨日日新聞が毎週木曜日に出している新聞です。
山梨のニュースがたくさん載っています。

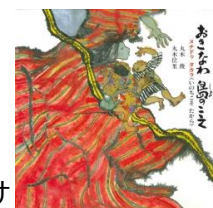
なんごしょう ほん 南湖小 おすすめの本から

南湖小では、学年ごとに選ばれたおすすめの本を必読図書として読んでいます。その中から、戦争について書かれた本を紹介いたします。

三年生のおすすめの本に、『かわいそうなぞう』があります。戦争をしていたとき、東京にある上野動物園で三頭のゾウが殺されたおはなしです。この本を読んだ人に読んでもらいたいのは、『ぞうれっしゃがやってきた』です。動物たちが殺される中、戦後までゾウがいた名古屋の東山動物園のおはなしです。



四年生のおすすめの本には、『おきなわ 島のこえ』と『ひろしまのピカ』があります。沖縄の人の3人に1人が命を失った沖縄戦、数え切れない人の生命が失われ傷つけられている広島への原子爆弾の投下を描いた「記録のえほん」です。



五年生のおすすめの本に、『ふたりのイーダ』があります。夏休みに訪れた田舎の町で、イーダという小さい女の子の帰りを待ち続けている、ふしぎなすに会おうはなしです。イーダというあだ名を持つ妹のゆう子といすの謎を追う直樹に、過去が解き明かされます。『ふたりのイーダ』から始まる「直樹とゆう子の物語」は全5作あり、『死の国からのバトン』、『私のアンネ=フランク』、『あの世からの火』が図書館にもあります。戦争における被害者と加害者の事実を突き付け、問題に向き合わせる物語です。また、おすすめの本である『杉原千畝物語』では、第二次大戦中、ナチスドイツの迫害から逃れるユダヤ人を救うために、6,000枚ものビザを発行した外交官、杉原千畝の生涯が著されています。

六年生のおすすめの本の『悲劇の少女 アンネ』は、『アンネの日記』を書いたアンネ・フランクという女の子の生涯を伝えています。日記に「私の望みは、死んでからもなお生きつづけること！」と書いた通り、アンネの遺志は今もなおのこされています。『アンネのこと、すべて』や『アンネのバラ』なども読んでほしい本です。また『紅玉』というおすすめの本にあるような、過去の事実から学ぶことを忘れないでください。

